

高砂百合

Am G Am Am G Am

何年前からだろう 門扉の傍に咲く

どこから吹かれてきたか 白い百合の花

C Dm7 C
「歩く姿まるで百合の花」と

Dm7 G C G
女性と求める言葉に使われる

Dm7 G C Am
それほど綺麗な花をつけるのに

Dm7 G C G
なぜか雑草と言われる

C Dm7 G Am
夏の終わりに咲いて散る

Dm7 G G7
束の間の喜びとは裏腹なことに

C Dm7 G Am
ほんの少しだけの間に

Dm7 G B7 Am
愛でられて終わる儚さがなにも拭えない

毎年見ていたのに ある年を境に

ひとつも生えなくなる 白い百合の花

花が咲く その間たくしの

夕糸を風に乘せて飛ばしてゆく

どこにもいなくなっても 別の場所に

旅する花と言われる

夏の終わりに 咲いて散る

束の間の喜びとは裏腹なことに

ほんの少しだけの間に

愛でられて終わる儚さがなにも拭えない

Capo. 2 1-マール(D)
Capo. 2 オープンD

(F)

古い腕時計が出てきた

D A A D Bm A A D

今はもう動かぬ、腕時計

整理して出てきた最初の腕時計
学生時代の頃にしていた

これを買ってもらったのは中三の3月

担任の先生の下宿に集まり

離れ離れになる友達多勢

初めて夜を明かした

時計の日付が変わる瞬間

感動してみえた

徹夜したこゝろ、それが初めて

1-マール + オープンD

縛った古新聞 たくさん積まれた

若い先生の部屋何もなかった

僕ら以外に誰もいなかったその下宿で

先生がギターを弾き語りしてくれた

そのあと近くのラーメン屋

狭いカウンター 一列に

何人いたおろろ 座敷でく

道路で食べるやつもいた

今はもう動かぬ、思い出のもの

空の巣 見つめる日々

いつかはやってくると

思ってた巣立ちのあと

何もなくなったあとの

空の巣 見つめる日々

成長し喜ぶよりも

生きがい 無くなったようになる

少し前まで 小づかたはねと

思ってた よりもずっと早かった

胸にあった 大きな穴を

埋めるためのものがなくて

これのちまた別のこと

始めようと思うけれど

何もやる気が出ない

空の巣 見つめる日々

成長し喜ぶよりも

この先何をしたらいいのかな

少し前まで と一緒にいたけれど

一緒にいたのがウソのように

ふとした時に 二みあげてくる

強い孤独 拭うものがなくて

胸にあった 大きな穴を

埋めるためのものがなくて

Capo. 31-ミル(D)

No. _____
Date. 23 4 21

F

夕方の虹 夜の花火

D G En A D G A En A D

^D夕方に^Gなっても^D青い^G空を

^D覆い^G隠す^Dような^G厚い^G雲の^Gむれ

^{En}その^A中で^{En}白く^A明るく^A雲の

^{En}下^Aに^{En}おす^Aか^Aに^D一筋^Dの^D虹^Dか

^Dハイキ^{En}ンク^Aして^D疲れた^D体

^D明る^{En}いう^Aち^Dから^Dシャワ^D-浴^Dびて

^Dふと^{En} ツツカ^Aケ^Dて^D外^Dに出^Dた^D時

^Dさ^{En}うに^A髪^A持ち^Aよ^Dくなる^D見^D上^Dげた^D空^Dに

* ^G雲^Aの^D晴^{En}れ^G間^Aめ^Dか^Dけ^D綺^D麗^Dに

^G晴^Aれ^Dの^{En}灰色^Gの^A雲^G突^Aき^D刺^Dす^Dよう^Dに**

No. _____
Date. _____

夜になっても 黒い空を

覆い隠すような厚い雲のむれ

その中で集まった人たちとの花火

打ち上げた火の粉が噴水のように

今宵は近所で納涼祭り

ほとんど知らない人たちだけ

持ち寄る料理やおでんの出店

たこ焼き焼きそば焼き鳥に酒

夜の空にめかけ綺麗に

さっきの一筋の虹のように

* ~ **

Capo. 5 1-マール(G)

Capo. 3 オープンD

ほしの少しでも

G D Em Em C D G B7

何日過ぎただろう 昼も夜も

浅い眠りで 病に伏している

健康な時は 眠る幸せ

感じていたのに いざこうなると

天井の模様を 覚えてしようほど

しばらく同じ姿勢が 続いている

ふと寝入った時に 元気な体で

陽のさす野原、寝転んでいた

なしたなく気がついて

夢だとわかった後も

目を開けたい、ほしの少しでも

C

1-マール+オープンD

隔離された体 ふす子の側に

置いてある食事 ビズケットと艾に

健康な時は いつでも自由に

食べていたのに いざこうなると

壁にひけられた 額の文字を

何度も読みかえし 意味を考える

ふと寝入った時に 元気な体で

お酒を飲んで 騒いでた

なしたなく気がついて 夢だとわかった後も

目を開けたい、続きを見るために

ふと寝入った時に 元気な体で

ギターかき鳴らし歌ってた

なしたなく気がついて 夢だとわかった後も

目を開けたい、ほしの少しでも

いろいろある

あるきっかけでできた恋愛感情と
 自然の成り行き of 愛情関係と
 あまり違いはないかもしくはないけれど
 始まりがわからず、方が終わりがわからず

人を好きになるのもいろいろある

くっついて離れて繰り返すうち
 そのうち別れてしまうパターンと
 慰めたり喧嘩したり繰り返すうち
 そのうち離れなくなるパターンと

どの様になるのかは自分だけで
 わかるはずもない

特別な気持ちの恋愛感情と
 ずっと一緒にいたい愛情関係と
 あまり違いはないかもしくはないけれど
 一方的なやりとりもお互いで育む方がいい

人を好きになるのもいろいろある

いろんなこと求めたり与えたりするうち
 見返りを期待するパターンと
 多くは望まなくて思いやるだけで
 見返りは求めないパターンと

どの様になるのかは自分だけで
 わかるはずもない

Capa 3 1-マール (Am)

Capo. 1 オープンD

(Cm)

敬 愛

Am G F G Am G F G Am E7

Am G 最後の最後まで筆を置くことなかった

Am G 自分の記憶すら まともでなくたって

Am G F G 信じた道を曲げることなく

Am G F G Am 腰が曲がっても机に向かって

C Am 現実と夢と記憶

F G いろいろと入り混じり

C Am 本当になかったことでも

F G Am E7 そんな事 どうでもいい

Am G 残せるものと残したいものと

Am G 命がある限り知恵を絞り出して

1-マール + オープンD

弱くなったあとに怒ることもなく

にニヤカに笑って面白いこと言ってた

できることならこの僕も

その形は違っても

今からでも遅くはない

見習って生きよう

残せるものと残したいものと

命がある限り知恵を絞り出して

最後の最後まであがいてゆきた..

自分の記憶すら まともでなくたって